



何百年続く伝統文化にも始まりがある。
 長沼地区は今、自分たちの手で、
 新たな伝統を創り始めている。

巻頭特集

伝統と誇りの継承 長沼まつり

伝えていくもの 守っていくもの





立体的な造形は圧倒的迫力。針金や木材で骨組みを成形し、和紙を貼り彩色します。灯りがともると、浮かび上がる鮮やかな色彩。踊り子「ハネト」の威勢の良い声が長沼に秋の訪れを告げます。

私たちの作品が、歴史の一ページを飾る。

ねぶた



長沼高校教諭 高橋克之さん



長沼高校美術部
部長 中山晴香さん(写真右)
副部長 遠藤彩美さん(写真左)

長沼まつりのねぶたの大きさは、高さ約5m、幅約5m。作り手も、運営する人も全て地域住民。郷土愛にあふれた祭りです。ねぶた・ねぶたの起源は定かではありませんが、灯籠流しや襖に起因すると言われます。長沼まつりの始まりは昭和六十年。地元有志が始め、現在は長沼高校も参加しています。造っているのは美術部とボランティアの生徒達。制作期間は構想を含め半年ほど。「瞬間燃焼」をテーマに、夏休み返上で取り組んでいます。今年のモチーフはNHK大河ドラマの主人公・真田幸村。赤い甲冑を纏い、前をしつかと見る目、うづくまるような体勢から前方へ押し出される手の動きなど、大胆なフォルムと色は注目を集めそうです。

福島県立長沼高等学校



長沼中学校
佐藤隆伸君(写真右)
小林元基君(写真左)

長沼中学校三年生が制作する「ねぶた」。平面に描かれた巨大な武者絵は圧巻です。絵柄は、春休みに三年生六十二名が描いた作品の中から選ばれます。地域の伝統継承として授業で取り組む長沼中。まとめ役を担うのが佐藤隆伸(さとうりゅうしん)君と小林元基(こばやしもととき)君。中学校三年間の集大成がここに結実したようです。長沼まつり当日は、三年生全員がハネトとしても参加します。祭りは、地域と子どもたちを繋ぐ場であり、郷土愛を育む場として受け継がれてきました。今年の作品は全部で十基。大人たちが造るねぶた・ねぶたとともに町内を練り歩きます。開催は9月10日土曜、須賀川市長沼の金町通りが会場です。

須賀川市立長沼中学校



全国のねぶた・ねぶたは各地により異なります。ねぶたでも人形型の地域がありますが、長沼ねぶたは、青森県の弘前ねぶた同様の扇型。子供みこし、よさこい、踊り流しも練り出し、町の表情が一変します。

僕たちの住む町を、みんなで盛り上げたい。



長沼中学校教諭 赤津 功さん

百聞は一見にしかず。ぜひ見に来てください！



長沼まつり実行委員会事務局 国分裕之さん



長沼まつり実行委員長 戸田修一さん



「観光客の数字じゃない。地元の人にとって、いい祭りであること。それを見失いたくありません。今後は初秋の風物詩として位置付けられるようにしなければなりません」

「仕事で長沼に赴任し、最初はイメージが湧きませんでした。祭りの姿を見た瞬間、気持ちが変わりました。この時、この瞬間のためにやっていたんだと、百聞は一見にしかずです。ぜひ見に来てほしいですね」



第32回 長沼まつり
平成28年 9月10日(土)
会場 / 須賀川市長沼金町通り
第一部 16:00~17:30
よさこい~フラダンス~
第二部 18:00~21:30
出陣式~踊り流し~子供みこし~
よさこい~ねぶた・ねぶた

●お問い合わせ / 長沼まつり実行委員会
(須賀川市長沼市民サービスセンター内) Tel.0248-67-2111

